

藤田観光株式会社
2025 年 12 月期第 2 四半期(中間期)決算説明会 質疑応答要旨
2025 年 8 月 8 日(金)実施

【業績予想について】

- Q: 業績予想の前提(営業指標)について、WHG 事業やホテル椿山荘東京の ADR の下期が上期を下回る想定となっている背景は。
- A: これまでは上期と比較すると下期の方が強い傾向があったが、様々な施策を講じていることやインバウンド需要の拡大を受けて上期も集客ができており、特に桜シーズンの ADR が伸長した。一方で 7 月 8 月は酷暑の影響などを受け、前年比での上昇幅は鈍化してきているため、下期予想については据え置きとした。

【インバウンド状況について】

- Q: インバウンド需要について、7 月 8 月は減速してきているということだが、国別動向に変化があるか。
- A: 春節がある 1Q は中国、上期全体では欧米豪が好調であった。一方で、7 月 8 月は 7 月 5 日の噂や酷暑の影響もあり、韓国・台湾を中心に伸びが鈍化した。従前より欧米豪や東アジアのセールスには注力しており結果も出てきていることから、下期についても継続して取り組み、鈍化影響を和らげたいと考えている。
- Q: これまでは拡大するインバウンド需要をうまく取り込み業績を大きく伸ばしてきたが、上期時点で WHG 事業全体のインバウンド比率は 6 割近く、ホテルグレイスリー新宿は 9 割を超えて推移しており、これ以上増やすのは難しい状況とみている。今後、国内需要の取り込みに重点を置くなどの営業施策を考える可能性があるか。
- A: インバウンド需要は継続すると見込んでいるので、下期については大規模施設の客室をシングルルームからダブルルームに改装するなどして利用人員を増やしていく。同時に、国内需要の取り込みにも従前から取り組んでおり、WHG ホテルズでの朝食の魅力強化などを着実に進めていく。

【成長戦略について】

- Q: A 種優先株式の取得および消却を決議しており、コロナ禍で弱体化した財務状況は大きく改善された。今後は新規出店に積極的に取り組むのか。
- A: コロナ禍での反省を生かし、自己資本の充実を進めながら、今後の成長に向けた投資も計画通り積極的に実施していく。

以上